

主題	幸町デイサービスにおけるセンターノートの活用法について		
副題	センターノートを通して見えてくる新しいご利用者様の一面		
デイサービス連絡帳	センターノート	研究期間	約 6 ヶ月間

事業所	東久留米市幸町デイサービスセンター		
発表者：湊 舞	アドバイザー：木村 貴博		
共同研究者：樋口 晃司			

電 話	042-470-8187	E-mail	
FAX	042-470-8188	URL	<a href="http://www.shalom-tokyo.net/">http://www.shalom-tokyo.net/</a>

今回発表の事業所やサービスの紹介	一般通所型の通所介護事業所です。定員は 34 名。下肢筋力低下の予防と活力ある生活をめざし、椅子体操、ラジオ体操、フォークダンスなど工夫を凝らし様々な運動プログラムを実施しています。また黒目川沿いの散歩や外出プログラムなど活動を通して季節感を味わって頂いております。他にも手作業やカラオケ、脳トレ、間違い探し等の脳活性化プログラムにも力を入れており、皆様より好評を博しております。
------------------	--

### 《1. 研究前の状況と課題》

2006 年（平成 18 年）7 月の開所以来、センターノート（幸町デイサービスでは連絡帳の事を“センターノート”と呼んでおり、この研究発表でも“センターノート”という名称を使用する。）の運用を続けてきた。

このセンターノートは、開所して間もない頃にある職員が、従来のような連絡帳ではなく、ご利用者様が主人公のノートを作りたい。ノートを通してご利用者様と質の高い人間関係を作りたいと情熱を込めて作ったものである。このセンターノートは、開所以来、途切れることなく継続してきたものであるが、その活用について検証を行う機会がない状況があり、事業所としての課題であった。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

ご利用者様、ご家族からセンターノートに関する意見・本音を聞き出す事を目標のひとつ

つとして設定した。得られた情報について職員間で情報共有を行い、ケアに反映していく事もできる。さらに、ノートの活用について検証を行う事によって、ご利用者様、ご家族の職員への思いが明確となり、その応答として職員の接遇態度をより良く改善して行ける事も期待している。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

#### ①対象者

幸町デイサービスをご利用されている、全てのご利用者様、ご家族を対象として研究を行った。（全体に対する対象者の割合は 100%である。）

#### ②取り組みの具体的な手法

すでに利用しているセンターノートについて意識調査アンケートを行った。

センターノートの活用事例については、ご利用者様、ご家族に研究の趣旨を説明して、

現在使用中のノート及び使用が終わったノートで自宅に保管してある物を貸して頂き事例検討を行った。

#### ③取組時間や期間

アンケート調査は平成26年7月21日より開始し8月1日に〆切った。その後、聞き取り調査を9月10日まで行った。

(約1ヶ月半)

この研究発表全体の期間は約6ヶ月であった。

#### ④取り組んだ職員数や構成

ケアワーカー7名、看護師1名、相談員1名、管理者1名で取り組みを行った。

#### ⑤部署間の連携

事例検討にあたり、以前に担当ケアマネジャーと連携を取った記録を、再度確認した。(この件については事例検討を行ったが、発表は行わなわない。)

#### ⑥必要とした道具や費用

センターノート1冊100円。ご利用者様本人負担。

#### ⑦活動の成果を出すポイントになった点

ご利用者様単独でアンケートに回答できない場合は、通所時に職員が聞き取りを行った。これにより、より多くの意見を聞き取ることができた。また、研究発表の担当者以外の職員にも聞き取り調査に参加してもらい、部署全体の発表となるように工夫を行った。

#### ⑧取り組みへの施設のバックアップ体制

ミーティングの時間に研究発表の取り組みについて進捗状況を報告し協力を受けた。また、発表のリハーサルには多くの職員に参加してもらいアドバイスを受け発表の精度を上げることができた。

### 《4.取り組みの結果と考察》

アンケート調査、質問5で「センターノートはあった方が良いか？」との質問をおこなった。その結果、本人では74%、家族では85%が「はい(ノートはあった方が良い)」

と回答された。また、自由回答の質問項目でも本人、家族ともに70%以上の方がセンターノートについて肯定的な意見を記入している。これはセンターノートがデイサービスのプログラムの一部になっており、欠くことのできないものであると言ってよいのではないかと。

### 《5.まとめ、結論》

センターノートは道具である。この小さなノートを使って、ご利用者様の理解を深め関係を大きくしていくのである。センターノートに書かれたサインをとらえご利用者様との人間関係を深め法人理念の達成に一歩でも前進していく。これが、本研究の結論である。三育ライフ理念「命を敬い、命を愛し、命に仕えることによって神の愛の実現に奉仕する。」

### 《6.倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7.提案と発信》

平成26年6月現在、東久留米市内にはデイサービス事業所は約34ヶ所ある。その多数ある事業所の中から選ばれる事業所となるために、このセンターノートの様に幸町デイサービスセンター独自の活動について、それを見直し、さらに発展させていきたい。そして、この東久留米市市民に必要とされ、地域に愛される施設を目指していきます。

【メモ欄】

